

# ② 戸塚B区の編成と今後の課題

石原昌信

## 一 はじめに

昭和四十四年十月に実施された行政区再編成以来、戸塚区の人口増加は著しくそのために生じる大・小区の間の不均衡は正のめとして「いずみ野沿線及び中和田地区を含んだ地域」のB区が明年十月を期して戸塚区から分割されることになった。

新しい区が誕生することで、各種の機能が整備され、生活環境が一段と完備されて、現在よりはるかに住みやすい地域になるだろう……これが、横浜の中心地区からとり残された私たちの実感と言える。

もちろん独立までのこれからの一年数カ月間に、私たちは新しい街づくりのために、何を、どうしなければならぬか知恵と力をふりしぼっていかなくてはならないが、ここに至るまでの経過や、これから考えられるいくつかの問題点を考

察してみたいと思う。

## 二 いずみ野線延伸を早急に

B区の編成は簡単にはいかなかった。地域の一体化には利便性がとくに問題になる。中和田地区と中川地区はもとも地形が違う。戸塚駅周辺を中心に全く別々の交通網により成り立っている。

一分区問題が一七回の審議と二四回の小委員会審議により、答申、発表されたが「中和田地区分区促進協議会」（会長小高保之助氏）は、昭和五十八年九月に会を設立して早期分区を要望したのに対し、中川地区は「分区対策協議会」（会長石川金正氏）をつくり、中川地区の中和田地区への編成を反対陳情（昭和五十九年三月）した。

中川地区にしてみれば、区役所への交通機関を考えたとき、中和田支所への利便は現在の戸塚区役所に比べきわめて悪

くなる。山を一つ越えるかたちになる。それに昭和四十四年瀬谷区の独立の際に阿久和町など町を分割されてまた……となることなどで、根強い反対になったもの。

しかし、昭和五十九年十月になって、中川地区連合町内会が条件つきで分区賛成の態度を表明するに至り「中川地区住民よい街づくり推進委員会」（会長石川金正氏）が設立（同年十一月）された。

かくしてB区案の住民合意がなり、独立のスタートとなったわけだが、相鉄いずみ野線の延伸は絶対不可欠のものなのに、いまの段階では測量すらはじまっておらず、一抹の不安を感じさせる。

新区役所の位置が未決定とは言っても現在の中和田支所地跡につくられる仮区役所へ行くためには、いずみ野駅からの延伸が一日も早く実現しなければ、中川地区の人々の不便は、このうえない。戸塚駅を中心とする現在のバス路線網では

- 一 はじめに
- 二 いずみ野線延伸を早急に
- 三 地下鉄はいつ？
- 四 新しい街づくり委員会の役割重大に
- 五 商店街の活性化も重要課題
- 六 緑のある街づくり

全く役に立たない。

## 三 地下鉄はいつ？

市営地下鉄が戸塚区舞岡町まで延びて本年三月一四日に華やかに開通した。しかし、戸塚とは言ってもこのB区地域には全く関係なし。

中心部と周辺部との生活格差をなくすためには、相鉄線と地下鉄の延伸が絶対必要である。住民として総力をあげて取り組む第一の課題であろう。

戸塚駅から湘南台方面へ向かっての地下鉄延伸を、県道下を通って立場経由で伸ばしてくれるよう地元は横浜市長に要望しているが、これに対し市当局は、  
① 著しい人口増加の戸塚以西の住宅地と横浜中心部を直結する重要な路線として戸塚―湘南台間の地下鉄延伸を考えている。

② しかしながら、きわめて厳しい財政事

情の中でしばらく時間をほしい。  
と答えている。

こうしてみると、地下鉄の延伸はまだまだ先の先のようだ。もっとも行政当局が決断しても、ルートや駅の設置場所について、どこを通し、どこを駅とし、どこを抜くかという段になったとき、住民対応がすみやかにいくとは考えられない。当然エゴや利害からんだ問題が発生し、こじれて簡単にはいくまい。その時こそ、住民が一致協力しなければ、実現できるもので、あきらめなければならぬ。

ほかにもまだ問題はある。戸塚駅西口の再開発に地元商店街が同意するかどうかも延伸問題を大きく左右する。地下鉄開通が中和の悲願でもあり、夢の実現のためにかなる努力も惜しまぬ決意がいちばん大切と言えよう。

#### 四——新しい街づくり委員会 の役割重大に

政令指定都市の行政区中最大の人口規模を有していた戸塚区の分区によって、戸塚B区(仮称)は、人口一十二万人、面積二・五九〇となる。

市民により身近な行政効果をもたらしてくれるために、地区センターや図書館など市民利用の行政施設が逐次整備されてくるだろう。

問題はこれらの施設が一部の地域に偏在すると不満が出る。公共用地が少ないこと、下水道の整備が極端に悪いことなど、新しい街づくりには幾多の課題がある。

B区の主だった町内会・自治会長が、この三月はじめ戸塚区役所の石川分区担当主幹と協議し、中川地区、中和田地区、中田地区、白百合地区合わせて、この「新しい街づくり委員会」を早急に発足させ、総合的な検討に入るといふ。

新しい街づくりのために、これからいくつもの難題に当たるといふが、せつか

くの委員会も「言いつ放し、聞きつ放し」「要求と文句ばかり」の区民会議型の委員会でなく、住民のリーダーとなる町内会・自治会長のご苦勞を考えて、みんな協力し合いたいものである。

#### 五——商店街の活性化も重要課題

さて、分区によって変化が想定されるものはなんだろう。行政機関や文化施設の設置場所に合わせて交通機関が整備されることになるが、それでは商店街はどうなっていくかということである。

中川地区の人々のためにいずれ、いずみ野線が現在の中和田支所付近まで伸びるのは確実だろう。すると当然そこに新しいスーパーや商店が誕生しよう。このため戸塚駅周辺の商業地域にはさまれる中田町を中心とする商店街に客足が遠のくのではないかと心配される。

こうした予想に立つ中田地区では「B区の行政上、経済上の中心地区を立場付

近に設定し相鉄線終着駅と付近とのバランスをとることが必要」(中田地区町会長山口寅蔵氏)という声が、かなり強い。商店街の活性化も新しい街づくりに強いかかわるだけに、区民利用施設の設置場所については重視しなければならぬ。

#### 六——緑のある街づくり

住みやすい生活環境づくりにはどうしても「緑のある街」が課題となる。

幸いにB区は調整区域が非常に多い。これから農・住共存の都市計画を進めることで、平地林や、屋敷内の緑を保護してもらおうことで、中心区とは比べものにならないくらいすばらしい緑園都市となる。

このことの実現のために、私たちB区民は意を決してことに当たらなければならぬ。それが私たちに課せられた唯一最大の役割と思う。

△中和田地区民生委員協議会副総務▽